

「しながわ夢さん橋」30回の歩みがもたらしたものの

時代を映してきた“夢さん橋”

1987年、「大崎ニュー・シティ」誕生と同時に始まった「しながわ夢さん橋」。以来30回目となった今年の開催まで、時代の移り変わりは催し内容や案内ポスターの表現の中に色濃く反映されてきました。そこで「しながわ夢さん橋」の歩みがもたらした歴史の所産をここに辿ってみました。

多くの活動を育んだ“夢さん橋”のころ

大崎のまちを盛り上げたい、との想いが一つになり、JR大崎駅の賛同のもと実現した空前絶後のノンストップ山手線。その後も「しながわ夢さん橋」のころは、大崎駅構内での米づくりなど、ふるさと大崎のまちづくりムーブメントの原点として大崎の人とまちの中に定着していきます。



1987【第1回】

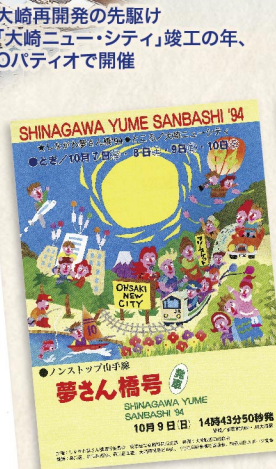
第1回の開催は“再開発第1号”の大崎ニュー・シティで。ノンストップ山手線「夢さん橋号」も、すでにこの時にスタート!



盛り上がりましたJR大崎駅の協力で



今も「夢さん橋号」は超人気イベントに



1994開催

ほぼ、ノンストップ山手線「夢さん橋号」だけが目玉だった時代。なんと出発時間は秒単位(50秒発)! 気合いが入っていました。



1996開催

この頃の開催は4日間のロングラン。この年にはまた、有名な“大崎駅構内での米作り”が綱嶋信一さんの肝入りで実現しています!



前代未聞 大都會の駅で米づくり! と願って大崎の再発見を



駅員さんと芳水小学校の協力で、たわわに実った“大崎米”



2003開催

まちの活性化に拍車がかかる頃。この年はユニークなひょうたんアートの祭典「ひょうたん祭」が“大崎発”で展開!



子供達の夢の力。パワードリームミュージックフェスタ



1999年からスタート。しながわ夢さん橋実行委員会からのドラム寄贈で実現した小・中・高生のライブコンテスト「パワドリ」



2004開催

ポスターに目黒川が大々的に登場。この頃から大崎には、目黒川を擁した“花と川のある文化のまち”のキャッチフレーズが...



2005開催

目黒川と虹に囲まれてニッコリ。嬉しい理由は、グンと充実した楽しいプログラム。この頃から“夢さん橋”の気は急上昇に。



「大崎寄席」。落語も「夢さん橋」の名物出し物に



2006開催

「大崎一番太郎」が晴れのデビュー! この頃からノン子と共にぬいぐるみ姿でイベントに出演。ポスターにも欠かせない存在に。

お花いっぱい大崎運動もみんなの力で



地域の中の中学校として「夢さん橋」をはじめボランティアに力を入れる大崎中学校などが協力を!

2017【第30回】

大崎の再開発が次々に完成して人が増える中で、開催規模もさらに拡大。30回目の今では品川の秋を彩る最大の催しとなりました。

